

洛友会役員

事務	常任幹事	北海道支部長	東北支部長	北陸支部長	九州支部長	四國支部長	中部支部長	中国支部長	中部支部長	関西支部長	東京支部長	副会長						
局	事	事	幹	幹	幹	幹	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
松	神	木	池	大	西	大	近	松	大	井	近	田	池	大	近	大	大	大
本	戸	村	内	家	村	園	藤	谷	野	上	藤	丸	上	嶋	藤	谷	谷	谷
俊	磐	義	尚	繁	耕	健	和	光	啓	文	幸	泰	一	一	一	一	一	一
博	夫	根	則	寛	和	治	三	郎	彰	夫	洋	吉	夫	一	治	之	之	之

迎春

一九九八年一月一日

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164



会長 大谷泰之（昭13年卒）

2世紀に向かって 透明な時代に前進しよう

益々ご健勝にお過ごしの事とお喜び申しあげます。

正元年卒)以来の事である。

が、昨年12月10日は、京大の23代総長に就任された事をご報告する

室の長尾 真教授(昭34年電子卒)

員各位のご努力に対しても益で改めて深謝申し上げる次第である

では、ペルーリマの日本大使館のテロ事件、中学生の連続殺人事件、英國ダイアナ妃の交通事故死事件等暗いニュースの多い年であつた。しかし何と言つても**地球温暖化**が最大の話題であつたので、

これについて聊か長文であるが、
かれた地球温暖化防止京都会議
(気候変動枠組み条約第三回締約
国会議)でCO₂(二酸化炭素)等の温

暖効果ガス削減の為の総合対策が決定された。

この会議には世界各地から150ヶ国、約5千名以上の参加が見込まれる。

れ、環境の世紀と言われる21世紀を、日本が切り開くのが直面する

大課題であった。

本稿締切日の11月25日現在では結論は不透明であるが、何れにしてもCO₂等の具体的削減目標が二〇〇〇年以降に、一九九〇年の排出量の何%減と云つた形で各国が合意する、それも議定書として纏めあげる事が最大の眼目であり、議長国日本の手腕が期待されている。日本案は90年実績に比べて5%削減を柱にし乍らも、各国の事情に応じて幅をもたせるという玉虫色の内容で、15%削減を主張するEUに対し米国は実質0%を主張しており、更に発展途上国の批判反発もあり、更に最近になってCO₂排出権の国際的取引問題も浮上して来おり、議長国として会議を成功させる事が出来るかどうか難航が予想されている。

たとえ先進国が削減しても、若し途上国がゼロになると完全に徒労に終るとのことである。またCO₂ガスが増え続けると、二〇〇〇年迄に気温が1~1.5°C上昇、海面も15~95cm上昇し、世界の気候に大変動が起ると言われている。大量生産、大量消費、大量廃棄に象徴される20世紀型文明に別れを告げ、環境に過剰な負担を与えない環境調和型文明を築いていくような社会の仕組みを考えていくことが大切であろう。

環境汚染物質として最大の関心

を集めているダイオキシンは、殊

る必要との意見もある。

省エネルギーと言えば、電気製品や、FAXやパソコン、プリンター等の無駄電力、待機電力の適当なガス化溶融炉の次世代技術が期待されている。

昨年東京で開催された自動車シヨーでは、CO₂排出量をガソリン車の25%に抑えられる天然ガス車や、ガソリンエンジンと電気モーターとを組み合せ、燃費効率を向上させ、CO₂排出量を½に抑えられるハイブリッド車も展示された。

その他環境危機の克服には科学技術研究開発が絶対不可欠である。また環境立国を目指して企業の環境情報の公開や、環境問題を必修科目とする青少年の教育も大切である。

元来日本人は質素儉約を美德としてきたが、バブルの頃はそれが消費に変わった。今後はエネルギーを節約する事が良い事、かついい事と言う風にライフスタイルを変えるべきであろう。

温暖化問題は早晚クリアすべき試練であり、人類に与えられたチャンスでもある。資源小国である日本、高い労働意識と技術力、適応力、そして経済力を備えた日本こそ、このチャンスに挑戦し実現できる必然性と可能性が、どの国よりも高いと思われる。

以上環境問題について、聊か長文の論評を行つた次第である。

昨年は一昨年にも増して国内外各方面に於ける改革改変の時代であった。わが国の政界での行財政改革では、或る程度の進展が見られたものの、所謂族議員や官僚による原子力発電の利用も考慮に入れ

の挑戦の為か期待外れに終りかけ、大山鳴動ネズミ一匹であった。

それに経済界では景気対策、不況対策、円安株安の悪循環、その上にアジア各国、特に韓国にまで通貨不安不況問題が波及した。

行財政改革問題で省庁改変について相当な進展が見られたものの、今後は政権の根本を揺がせない様相が見られ、政権は全く不透明な状況である。

ところで明るいニュースの一つは、昨年11月サッカーのW杯の対イラン戦に日本が勝利を得て、フランス行きが決定し、サポートを中心とする興奮がまだ続いている事である。この様な一致した熱意が、他の経済界や政治分野等の諸分野の改革にも注がれる事を望みたいものである。

また暗い話に戻るが、ここ2、3年金融機関の破綻が続いており、特に名門のしにせ証券会社の戦後最大の破綻に代表される不況事件の話題である。

特に日本版ビックバン(金融制度改革)を3年後に控えて、株価の低迷に加えて総会屋への利益供与事件もある。金融システムの信頼、安定の回復問題が大切であり、経済界、金融界は厳しい冬の時代に直面している。

政府や財界でも不況対策、景気対策として規制緩和や省庁再編等

迎 春

一九九八年一月一日

京都 大学

電 気 関 係 教 室
教 官 一 同

財 団 法 人

関 西 電 气 保 安 協 会

理 事 長 矢 森 智

フ ジ テ ッ ク 株 式 会 社

取 締 役 社 長 内 山 正 太 郎

■ヤード株式会社

松 下 電 器 产 业

会社

れた。

1、記念行事

記念行事は平成10年9月26日

(土)13時30分から、京都駅上り都
ホテルで開催されることが決めら
れた。その概要は

(1) 記念式典 13時30分から

14時30分まで

(2) 記念講演会 15時から

16時30分まで

(3) 祝賀パーティー 17時から

19時まで

となつてゐる。記念式典、記念
講演会は無料であるが、祝賀パ
ーティは有料とする。これらの内容

の詳細についても議論されたが、
記念講演などは講師のご都合もあり、
決定次第改めて洛友会報でお
知らせする。

2、百周年史

百周年史については、洛友会報
本年10月号にも概略が紹介されて
おり、平成10年7月頃完成させる
ことを目標にしている。すでに電
気系教室で編集が始まられており、
卒業生への原稿依頼は洛友会本部
評議員を通じて行われている。な
どの説明があつた。

3、募金活動

洛友会会員への募金活動は平成
9年4月以来行われているが、11
月14日現在の醸金額総計はほぼ2
千200万円となつてゐる。この
醸金の主な使途は百周年史の編集

・出版、および記念行事であり、
残額をできるだけ基金にもまわし
たいので、目標額3千万円を達成

すべく会員の皆様のなお一層のご
協力をお願いすることとなつた。
また母校への教育・研究助成事
業などをを行うための事業基金3億

円を作ることを目的として、企
業への募金依頼を8月頃から開始
し、各企業ではそれぞれ検討して
くださつてゐる由である。しかし

企業を代表する実行委員から、京
都大学百周年事業募金とのバッテ
イングがあり、電気百周年事業へ
の醸金はなかなか難しいという意
見も出されたので、洛友会として

は今後企業上層部への直接的な勧
きかけなども行なつて熱意を示す
必要があると言ふことで意見が一
致した。

なお、募金が集まれば財団法人
「洛友会技術振興財団」(仮称)を
設立する計画で、すでに文部省と
もコンタクトをもちアドバイスを
受けており、基金さえ集まれば法
人化は可能という感触を得ていて
人の報告があつた。

4、賛助会員募集

母校への教育・研究助成は、大
学院博士課程への進学の奨励のた
めの奨学金などのほか、母校の研
究室と産業界のつながりを強化・
促進するなどの事業を行ふことと
してゐるが、前記の基金の利息で

は賄えないため、広く賛助会員を
お願いすることになつてゐる。賛
助会員には年2回電気関係教室の

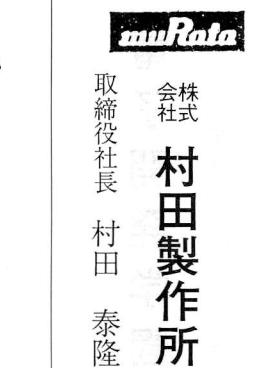
技術情報誌「cue」をお送りして
するとともに、上記の「洛友会技
術振興財団」が、企業と大学との
交流の仲介を行うなど、产学共同
の促進をおこなう。

賛助会員は一口10万円で一口以
上であるが、これまでから卒業生
の活躍しておられる企業では、研
究会員各位がさらにこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。

常任幹事 木村磐根(昭30年卒)
友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。

友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。

常任幹事 木村磐根(昭30年卒)
友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。



迎
春

一九九八年一月一日

究所、事業所の単位で賛助会員に
ご加入頂き、また卒業生の必ずし
も居られない企業にも会員になつ
て頂くようお願いして行くという
方針が了承された。卒業生の皆様
には賛助会員ご加入の勧誘につい
てもご協力を賜りたい。

なお本実行委員会としては、洛
友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。

常任幹事 木村磐根(昭30年卒)
友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。

常任幹事 木村磐根(昭30年卒)
友会員各位がさらにもこの記念事
業に温かいご支援を下さるようお
願いする次第である。



長尾 真先生 教授退官記念講義 および総長就任祝賀パーティーのお知らせ

電子通信工学先攻教授長尾 真先生におかれましては、平成9年12月16

日より京都大学総長に就任され、教授を退官されることになりました。つきましては先生の御功績を記念し教授退官記念講義を行ないますのでお知らせさせて頂きます。広く一般の方々の御来聴をお待ちしております。

教授退官記念講義(電気系教室主催)
日 時 平成10年2月28日(土)14:00~16:00
場 所 京都大学工学部電気総合館 大講義室
題 目 「人間的情報処理を目指して」
また、講義に引き続き、平成9年11月3日の紫綬褒章受章および総長就任をお祝いするパーティーを下記の要領で行ないます。

連絡先 TEL 075-211-5111 (代表) FAX 075-254-2529

記念講義およびパーティーに関する詳細は黒橋 (tel:075-753-4985,kuro
@kuree.kyoto-u.ac.jp) までお問い合わせ下さい。

財 团 法 人
応用科学研究所

教室だより

平成9年度

電気系教室懇話会

電気系教室恒例の秋の懇話会行
事が、さる11月21日(金)の午後電
気総合館中講義室および旧教養部
構内の生協吉田食堂で開催され、
卒業生、教職員、および学生を合
わせて約100名の方に出席いただき
ました。ちょうど図書館で催され
ている京都大学百周年記念展示を
ご覧になつた後、学園祭の露店で
賑わうキャンパスを散策しながら
お越しいただいた方も多いう
した。

午後3時から始められた第一部
の講演会は電子物性工学専攻の橋
專攻長司会のもとで、電気電子工
学科の上田学科長の挨拶に引き続
き、本教室の林宗明名誉教授(昭
27年卒)、横河電機(株)技術開発
本部の山本茂理事(昭38年卒)、お
よび電力中央研究所泊江研究所の
林敏之上席研究員(昭44年卒)に講
演をいただきました。聴講者は卒
業生、教職員、および学生を合わ
せて約100名でした。

最初の「諸先輩の言葉から」と

題する講演は、林先生が学生でい
らつしやつた49年前の懇話会の想
い出から始まり、先生が1年間の
活動を紹介しました。

親を思う何十倍も親は子を思つて
いる)、で締めくくられました。

になるかと思います。是非とも、OBの方々には、懇話会に限らず、故郷京大へ足をお運びいただき、学生と「知り合い」になつていただければとお願ひする次第です。

最後になりましたが、講演を快くお受けいただきました講師の

会員寄稿

戦中派の学生生活(VI)

副会長 近藤文治(昭18年卒)

(ト)教練

大学においても正課として教練すなわち軍事訓練はあつた。しかし上級の学校に進むほど、訓練は楽で緩やかだつた。教練の時間は短靴でゲートルを巻いていた。配属将校は少佐であったが、私達が直接接する教官は准尉あるいは曹長クラスで、何れも実戦の経験のある年配の人達だつた。これらの教官はどうしてか、妙に遠慮深く生徒である私達を紳士扱いしてくれた。夏の暑い日なんかは、学生を木陰に座らせ自らは炎天下に立つて、戦場での経験談などを面白く話してくれるのだつた。どつちが訓練を受けているのか判らない位だつた。長く京大に勤め、京大生と言えば、出世払いが利き、卒

業すれば高給を食み、末は会社の重役がほぼ保証されているエリー

トであることを熟知していた所為かも知れない。もちろん軍事教練であるから、行進、ほふく前進、

小銃操作、射撃、突撃など一通りの軍事訓練はあつた。しかし中学校で鍛えられた私には全く応えなかつた。教練の前10分間位体操があつたが、この体操も含めて、教

練はむしろ楽しいリクリエーション科目と考えていた。前にも書いたように、私達の時代は修業年限

短縮で授業の詰め込みが行われ、講義を聴講すること自身が肉体的

にも重労働であつたので、週に一

度グラウンドに出て、外の空気を

吸い駆けり回るのも決して悪く

はなかつた。講義の息抜きとして

格好の科目であった。

(チ)講義

講義の形態も今とは全く違つて、隔世の感が深い。当時の模様を幾分でも紹介できたらと思う。

a、ノート講義

戦前は大学レベルの教科書は殆どなかつた。従つて授業は「ノート講義」と呼ばれる形式で行われた。

先生はご自分で作られたルーズリーフの原稿を、学生が急いで書

方々、遠くからお越しいただいた者の皆様にお礼を申し上げます。

上田院亮、多田博一記

この事件は大変なショックであつた。大学院学生には教練はなく、書き取ったノートを教科書として勉強するのである。このように教官の口述をノートに写し取る形式の講義を「ノート講義」と言う。

大学の講義はもちろん高等学校でもノート講義が可なりあつた。

ノート講義では授業中隣の学生と私語したり、講義を聞かずよそ見することは許されなかつた。

教官の言葉を聞き洩らさじと聞き耳を立て、ノートを取る(ノートに書き写すこと)ことで精一杯であつた。そのため講義の内容等頭に入る筈がなかつた。夜、家で書きなぐつたノートを整理する時にその部分が脱落していたのだ。今更手遅れである。ヒヨツとするところなく終わつた。

腹立ちまぎれのいたずらである。二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

二人とも関西人で、腹が立つと言葉まで関西弁丸出しになるのを許して頂きたい。しかし例の将校がこの日に限つて通らなかつたのでことなく終わつた。

で勉強して期末試験を受けた。出た問題を見たら、全く手も足も出ない問題があつた。その問題には白紙の答案を出した。

試験終了直後、友達に「おい、白紙の答案を出した。

「いや、講義にあつたよ。お前、勉強してなかつたんか。」

アツと思つた。そう言えば、一

度だけ講義サボつたことを思い出した。その時の講義がそれだつたのである。私のノートには完全にその部分が脱落していたのだ。今更手遅れである。ヒヨツとすると赤点(落第点)かも知れない。

当時、1学年は学年制で科目は全部必修であつた。従つて1学年に配置された科目は1学科でも落とすと仮及第となり、3科目以上だと落第することになつっていた。

兵役が最短在学年限だけ猶予されていたので、落第すると学業半ばで兵隊に行かなければならぬ。

一生の問題である。落第は絶対に許されなかつたのである。しかし

私達より数年前までに卒業した学生は、学生生活を満喫し不勉強の故をもつて、修業年限3年のところを4年で卒業するのはザラで、

学科によつては、クラスの半数以上が落第経験者という学科もあつ

た。従つて落第は恥とは考へる必
要はなく、むしろクラスメートが倍
できたことを喜ぶ氣風さえあつた。
それを思うと我々の時代は戦争の
ためとは言え随分厳しい学生生活
を送らざるを得なかつたのである。
三高時代の代数の試験に統いて
生涯2度目の赤点かと思つたが、
発表された成績表には「及」のハ
ンコが押してあつた。教官になつ
てから成績を調べべたら75点がつい
ていたようだ。 (つづく)

についての情報を交換することである。モスクワ・パリ・アトランタそして東京に地域センターがあり、すべての活動はこの地域セン

任期途中での事務局長辞任を申し出て承認されたので、このパリ総会は私ことつての最後の総会となりました。

不足していたと思う。事前に各地域センターの意見を聞くというこ

・オーケストラ「カメラータ・ユーラクリアーレ」がハイドンとエリツィアレトを演奏するのでそこ

ループルでビオラを

弾く(その一)

て仕事をしたのであつた。

りつめて万全を期したのに比べ、

ではなく、私個人としては大いに

だし、これについてはカール氏は

た。従つて落第は恥とは考へる必要はない、むしろクラスメートが倍できたことを喜ぶ氣風さえあつた。それを思うと我々の時代は戦争のためとは言え随分厳しい学生生活を送らざるを得なかつたのである。

三高時代の代数の試験に統いて生涯2度目の赤点かと思つたが、発表された成績表には「及」のハシゴが押してあつた。教官になつてから成績を調べたら75点がついたようだ。(つづく)

についての情報を交換することである。モスクワ・パリ・アトランタそして東京に地域センターがあり、すべての活動はこの地域センターが中心になつて進められる。また、地域センターに共通の問題を処理するためロンドンに調整センターがある。東京センターはアジア地域における活動の拠点といふわけである。東京センター事務局には、韓国、台湾、中国(本土)インド、パキスタンそれに日本か

任期途中での事務局長辞任を申出て承認されたので、このパリ総会は私にとつての最後の総会ということになった。

さて、この時の総会であるが、東京総会を主催した立場からコメントするなら、今度のパリ総会の開催・運営は、準備の段階からかなりもたついたといわざるを得なかつた。パリ・センターの事務局長が総会三ヶ月前に交代するといった事情はあつたにせよ、東京総

不足していたと思う。事前に各地域センターの意見を聞くとともに全く行われず、東京総会の提合、何回も準備委員会を開いて各地域センターの事務局長に来てもらい、意見を聞きながら準備を進めていったのに比べ、かなりの違ひがあった。ヨーロッパ流というのはこういうものかもしれません、これですべてうまくゆくなら何も東京総会の時のような大がかりなことをする必要もないわけではある

・オーケストラ「カメラータ・ユーフィアーレ」がハイドンとエーツァルトを演奏するのでそこに入らないかという話、もう一つはWANOの理事会議長のレミニ・カール氏がピアノを上手に弾かれるので、二日目の夜、オペラ座でディナーがあるとき、デュエットをやらないかという話であつた。デュエットについてはために三月にヨーロッパへ来たとき、楽器を持ってカール氏の家にゆき、テ

坂入武彦（昭33年卒）

がある。これは各地域センター回り持ちで、設立準備総会が一九八七年パリ、設立総会が一九八九年モスクワ、一九九一年総会がアトルンタ、そして一九九三年総会が東京で開かれた。東京総会の時はもちろん私は事務局長として全責任を負う立場にあり、実にさまざまなことがあった。それについては話せば長いが、それについてはまたご紹介する機会もあろうかと思うので、今回は、その次にパリで開かれた、一九九五年総会の時の旅日記を読んでいただこうと思う。なお、私自身についていえば、種々の事情から、この総会の直前に開かれた東京センターの理事会で

せきりだし、会議後のツアーについても旅行社まかせて、事務局に何かを問い合わせてもほとんど何もわからない。あとでわかつたことであるが、ディナーやアトラクションについてもほとんどプロダクションまかせだったようである。まあ東京総会の場合は日本の全電力のバツク・アップがあつたのに比べ、パリ総会の場合は事務局冒だけ、それも外国からの駐在技術者はのぞいて、フランス人のスタッフだけがやつっていたので、細かいところまで行き届かないのはやむを得ないともいえるが、それにしてもこれだけの大きな会議を開催するにしてはちょっと心構えがない

担当の山田愛子さんが日本の会員から殺到する問い合わせに押しつぶされそうになつてついぶん苦労しておられた。

ところでパリ総会では私にとつてきわめて個人的な用件がひとつあつた。東京総会の時、私の所属するオーケストラに頼んでディニナーレの席上で演奏をしてもらい、私もその中に入つてビオラを弾き、おおいに話題になつたのであつたが、それが機縁で、パリでも演奏しないかという話が持ち上がつたのである。演奏の機会は二つあります。ひとつは初日の夜、ルーブルでディナーがあるとき、ドイツの原子力関係者を中心としたアマチュア

ら」との理由で基本的にはやりたくない様子であった。それに、オペラ座のディナーでは、オペラ歌手によるオペラ・アリアの独唱とブルガリアのコズロデュイ発電所長クズマノフ氏のお嬢さんとのアソ独奏があることになつております。一流のプロの演奏家の演奏のあとにわれわれがのこと出てゆくのはたしかに場違いな感じがしたのもつともパリ・センター事務局はこの案にかなり乗り気で、だいどカール氏を口説いたようだが結局OKは出ず、従つてディナーのプログラムの中にも入つていなかつたし、一度は完全に消えたのであつた。ところがこの年の四月はどう

た。従つて落第は恥とは考える必要はない、むしろクラスメートが倍できたことを喜ぶ気風さえあった。それを思うと我々の時代は戦争のためとは言え随分厳しい学生生活を送らざるを得なかつたのである。

三高時代の代数の試験に統いて生涯2度目の赤点かと思つたが、発表された成績表には「及」のハンコが押してあつた。教官になつてから成績を調べたら75点がついていたように思う。（つづく）

についての情報を交換することである。モスクワ・パリ・アトランタそして東京に地域センターがあり、すべての活動はこの地域センターが中心になつて進められる。また、地域センターに共通の問題を処理するためロンドンに調整センターがある。東京センターはアジア地域における活動の拠点といふわけである。東京センター事務局には、韓国、台湾、中国(本土)、インド、パキスタンそれに日本から合計十数名のスタッフが常駐し英語を公用語として、協力して仕事をしたのであつた。

ところでWANOの主な行事のひとつに、二年毎に開かれる総会がある。これは各地域センター回り持ちで、設立準備総会が一九八七年パリ、設立総会が一九八九年モスクワ、一九九一年総会がアトルンタ、そして一九九三年総会が東京で開かれた。東京総会の時はもちろん私は事務局長として全責任を負う立場にあり、実にさまざまなものがあつた。それについて話せば長いが、それについてはまたご紹介する機会もあろうかと思う。旅日記を読んでいただこうと思うので、今回は、その次にパリで開かれた、一九九五年総会の時の事情から、この総会の直前に開かれた東京センターの理事会で

任期途中での事務局長辞任を申出て承認されたので、このパリ総会は私にとつての最後の総会ということになった。

さて、この時の総会であるが、東京総会を主催した立場からコメントするなら、今度のパリ総会の開催・運営は、準備の段階からかなりもたついたといわざるを得なかつた。パリ・センターの事務局長が総会三ヵ月前に交代するといった事情はあつたにせよ、東京総会の時、東京センター事務局はそれこそ夜も寝ないぐらゐに気を張りつめて万全を期したのに比べ、たとえば参加登録は会議のマネージメントを専門とする会社にまかせきりだし、会議後のツアーリーについても旅行社まかせで、事務局に何かを問い合わせてもほとんど何ともわからない。あとでわかつたことであるが、ディナーやアトラクションについてもほとんどプロダクションまかせだったようである。まあ東京総会の場合は日本の全電力のバック・アップがあつたのに比べ、パリ総会の場合は事務局冒だけ、それも外国からの駐在技術者はのぞいて、フランス人のスタッフだけがやつていたので、細かいところまで行き届かないのはやむを得ないともいえるが、それでもこれだけの大きな会議を開催するにしてはちょっと心構えが

不足していたと思う。事前に各地域センターの意見を聞くといふことも全く行われず、東京総会の場合は、何回も準備委員会を開いて各地域センターの事務局長に来てもらい、意見を聞きながら準備を進めていったのに比べ、かなりの違和感があった。ヨーロッパ流というのはこういうものかもしれません、それでもすべてうまくゆくなら何も東京総会の時のような大がかりなことをする必要もないわけではあるが、結果的には会議の運営は決して合格点をつけられるようなものではなく、私個人としては大いに不満であった。事前の情報不足にも泣かされ、事務局の中では渉外担当の山田愛子さんが日本の会員から殺到する問い合わせに押しつぶされそうになつてついぶん苦労をしておられた。

・オーケストラ「カメラータ・ユーフィアーレ」がハイドンとエリザベスの「ソナタ」を演奏するのでそこにWANNOの理事会議長のレミー・カール氏がピアノを上手に弾かれるので、二日目の夜、オペラ座でディナーがあるとき、デュエットをやらないかという話であった。デュエットについてはために三月にヨーロッパへ来たとき、楽器を持ってカール氏の家にゆき、デュエットをしてみてまあなんとかなりそうとの感触を持つた。ただし、これについてはカール氏はなぜか非常に臆病で、「公衆の面前で一度も弾いたことがないから」との理由で基本的にはやりたくない様子であった。それに、オペラ座のディナーでは、オペラ歌手によるオペラ・アリアの独唱とブルガリアのコズロデュイ発電所長クズマノフ氏のお嬢さんのピアノ独奏があることになつており、一流のプロの演奏家の演奏のあとにわれわれがのこと出てゆくのはたしかに場違いな感じがした。もつともパリ・センター事務局はこの案にかなり乗り気で、だいぶカール氏を口説いたようだが結局OKは出ず、従つてディナーのプログラムの中にも入つていなかつたし、一度は完全に消えたのであつた。ところがこの年の四月はどう

総会は四月の二十四、二十五日で、二十三日に参加登録とレセプションがある。従つて、事務局からの参加者は二十一日発であつたが、私は二十二日にレミー・カーラル氏の家へ行つて、もう一度デュエットのリハーサルをすることになつていたので、他の連中より一日早く二十一日に出発した。本来なら事務局長たるものは他の参加

ークリアーレのほうは、最初は第一バイオリンの楽譜が送られてきたりしてもたついたが、責任者のエテマイヤー氏、コンサートマスターのシモンセン氏とも連絡がつき、細かな演奏上のことについて手紙を交わしたりして、着々と準備は進んだ。なおこのときのプログラムはハイドンの交響曲第九十九番とモーツアルトの交響曲第三十六番「リンツ」で、ディナーの前にハイドン、ディナーのあとにモーツアルトを演奏することになつていた。

「実はオペラ座のディナーの時に、出演が予定されていたクズマノフ嬢が出演しないことになった。穴埋めに「一人でやろうか」といいだし、焼けぼっくりに火がついたのであつた。もつとも、これもやると決まつたわけではなく、あくまで今後の様子を見てという条件付きであつた。カメラータ・ニュ

ば大切に保管いたしましたというつもりなのだろうが、まず弦楽器は原則として立てて置いておくものだし、ましてや楽器ケースに毛布を掛けるなんて聞いたこともない。楽器というものは楽器であるということがわかる状態にして置いておくのがいちばんいいので、毛布なんかかけて、その上に知らずに重いものでも置かれたたら万事

四月二十一日、J.L.45便で十二時三十分発。楽器を持っての旅なので出国前に税関でこれは日本から持ち出したものであるとの証明をもらつた。飛行機は意外に空いて快適であった。ただ楽器をスチュワーデスに渡して「安全なところに保管しておいてください」といつたら、後部座席の後ろにおいてくれたのはいいとして、「横にして毛布を掛けておきました」といってきたのはお笑いであつた。スチュワーデスにしてみれ

者の世話をすべきであり、こういった単独行動をすることは慎まねばならないのだが、私がままなく事務局長を辞任することは公知の事実であり、WANOの仕事でパリへゆくのも最後なので、まわりも何となく許してくれたのだと思う。私としても最後のパリ出張は他の人に煩わされることなく、一人で静かに終わらせたいといふ

で、どちらでもかまわないようなものだが、これがたとえば日本ならどうしたんだろうと思つたりしたタクシーでホテル・インター・コンチネンタルへ。チェック・インして様子を見にゆく。会場の準備はまだこれからのようにあつたが廊下を歩いているうちに顔見知りの人にたてづけに会い、パリ・センターのルクレシアさんにも会

時間がかかりますとのアナウンスがあり、がつくり来たが、どうしようもない。荷物が運ばれてくるところの近くでとにかく待った。小一時間たって、日本でいえば二トン積みぐらいのトラックが二台やつてきた。日本航空の職員が総動員でスーツケースを下ろし、お客様が自分自分で引き取つてゆく。私のスーツケースもまもなくでてきたので引き取つてタクシー乗り場に向かつたが、考えてみると税関を通つていない。まあ仮に税関を通つたとしてもフリーパスなの

休すである。あとで見に行つたら
上に何も乗つていなかつたのでそ
のままにしておいたが、これがシ
ロウト考えといふものだなあと思
つたのである。

にまかせて歩いた。モナ・リザだけが特別扱いで、「モナ・リザはこちら」という矢印があちこちにあるのがおかしかった。自分としては絵画よりも彫刻のほうによりひきつけられた。言うまでもなくルーブルは広いのでどっちみち全部は回れないし、その日の午後から大切な用件がはじまるのでほどほどにしてホテルに戻った。お昼

ついてそれまではひまなのでループルへゆくことにした。実を言ふとパリにはもうかれこれ十回ぐらい来ているがかかる有名なループルへは行つたことがなかつたのである。実は一九六七年に最初にパリへ来たとき、勇んで行つたのだが何とストライキ中で入れず、それが以来足を向けるひまがなかつた幸い、ホテル・インター・コンチネンタルはループルのすぐそばで、歩いても十分ぐらいである。有名なピラミッド型の入り口で四十ループルの入場券を買い、あとは足

い、やはりここは総会前夜なので、あつた。東京から飛んで来たときの通例としてお腹は空かないのに、下のコーヒーショップで簡単に食事をし、あとは部屋でビオラを弾いたりしていた。何しろ今度は楽器があるので時間をつぶすには苦労しない。

次の日は四時半にカール氏がホテルに現えに来てくれることになつた。東京から飛んで来たときの通例としてお腹は空かないのに、下のコーヒーショップで簡単に食事をし、あとは部屋でビオラを弾いたりしていた。何しろ今度は楽器があるので時間をつぶすには苦労しない。

アーレで弾くことになつてゐるので、それで楽器を持つてきただ目的は一応果たされることになり、デュエットにあまりこだわるつもりはなかつたが、もしかしてカール氏と一緒に公衆の面前で弾くこともありうかと思つてそちらのほうもかなり練習をしてきたので、ちよつと惜しいような気もしていた。(次号に続く)

ほうがよかつたような気がする。やはり緊張の度合いが前回のほうが大きかったのである。七時頃にクラーク氏夫婦が来て食事になり、そのあといわば「清書」という感じで一通りやつたが、あまりうまく弾けたとはいえない。ナインで演奏する件についてははつきりとした結論は出なかつたが、カール氏は基本的には消極的であり、まあやらないということだと了解し、楽譜も全部返してもらつて持つて帰つた。私自身はどちらみちカメラータ・ニューエクリ

カール氏は約束の四時半からかなり遅れてあらわれた。郊外の彼の家へ向かう。今日はあとで調整センター事務局長のクラーク氏も取り出して小手調べ。まあまあである。ただ調子としてはこの前の

ヨットウーマン

今給黎教子さんの講演(続)

佐々木隆雄(昭47年卒)

死ぬほどの船酔い いよいよ 27

才の秋、出航することとなつた。悲壮感をもつて行きたくなかったが、鹿児島出航後1時間くらい泣き続けた。出航できたという満足感と、どうなるのだろうという不安感が半々だった。1時間泣いたので、すつきりした。「これは私の夢だつたんだ」と自分を納得させた。

出航後2週間は船酔いに悩まされた。ヨットマンが酔いに強いということはないのだ。ヨットに乗るということは、途中の定期整備等、多くの仕事があるが、吐いては、仕事し、生きるために食べては、また吐いての繰り返しで、体重が10kgも減つてしまつた。1週間トイレにも行かず、本当に弱つた。実際、ヨットで長期航海に出かけた屈強な男性でも、1~2週間で船酔いにやられて、「SOS」を出す人もいる。最初が勝負で、この間に航海を断念した人は多い。私も死ぬほどの苦しさだったが、「船酔いでリタイアするくらいなら、遭難したほうがましだ」と思つ

て頑張つた。

大波で横転

航海では強烈な台風に遭遇した。風速50m/sの暴風

「氷山が目の前に来てます」といつたら「きれいですか。もっと近づいて見てください。氷山に上れませんか。氷でオンザロックができますか」などという。氷山はもろく、ちょっとしたことで崩れてしまう。海上にはほんの1/7くらいが姿を現しているだけで、実際に巨大なものだ。氷山が近づくと夜も眠れない。ずーっと監視していないと、接近して何かの拍子で崩れて、いつヨットに襲いかかるか知れない。3日間徹夜で監視した。氷山は夜は青白く光ると天井近くに窓があるが、その窓に最初白い泡が映り、次に濃い緑の海が見えたとき、「海中だ、転覆した」と実感した。

こういうときは陸のものすべてが好きになる。私は人の好き嫌いが激しい方だが、大嫌いな人のことでもマリア様のように思えてきた。「ここへ来てくれるなら結婚してもいい」とさえ思つほどだった。陸に帰つてからその人に会つたが、その時はやはり大嫌いな人に戻つていた。

からも関心をもたれていないのではないか」というような悲観的な考え方支配し始める。實際いろいろな航海記を読んでみると、この孤独感のために自殺した人もいるくらいだ。人間は1人では生きていけないのだということをつくづく実感した。

て頑張つた。

落としたとき、エンジンを始動させて近づき、無事拾い上げることができるなど結構役に立つた。

自動かじ取り装置は寝ていても設定した方向にかじをとつてくれ

る便利なものが、途中故障してしまい、四苦八苦してようやく仮修理することができた。

食料はほとんど缶詰やレトルト

だつたが、時々まぐろ、かつお、シイラなどをトローリングして捕獲したり、トビウオ、イカなどがヨットに飛び込んでくれた。

修理することができた。

大好きで、世界一周に使用したヨットの名前も両親の名前「連(れん)、「海子(うみこ)からとり「海連(かいれん)と命名していた仲間本當にあのときの自分を振り返して、ようやく危機を脱出できた。本当にあのときの自分を振り返ると自殺寸前だったと思う。鹿児島に無事帰還できた時は、世界一周の成功よりも友達や家族と会えたことが1番嬉しかつた。

ヨットの命名

わたしは両親が

前にするのか」と冷やかした。そ

んな名では「かえれん」といいた

たちは「どうしてそんな不吉な名

前にするのか」と冷やかした。そ



兄の跡を継ぎ藩王となり後、江戸幕府大老に就任して開国を決め、安政の大獄です。万延元年3月3日大雪の朝、水戸浪士等に襲われ、桜田門外に白雪を血で染めたまさに“花の生涯”でした。12時40分、彦根プリンスホテルで昼食・懇親会・来年1月満百才を迎える本多顧問の近況(9月5日、新装成った名古屋能楽堂において自作の狂言“三国山”に出演された。但し本多顧問の役は一言もしゃべらぬ青衣の神人。今年も冬にはオーストラリアに行かれて泳がれた……)と今年は奥様方も含めた会員の近況報告、最長老の川端さんの健康秘訣など話は尽きました。次的目的地は長浜、バスはびわ湖畔を快適に走ります。車内では幹事の用意した楽譜“びわ湖就航歌”的全員合唱をしました。浜について、「黒壁スクエアー」のパンフレットから借文します。

日本最大の湖、びわ湖は滋賀県が部屋住み時代(17才から32才まで)を過ごした埋木舎を見学しました。第1回NHK大河ドラマ“花の生涯”的主人公です。十四男として生まれ、この屋敷を埋木と号するに「世の中を見つつも埋木の埋もれておらむ心なき身は」と詠み、ここで禅の道のほか、茶歌、鼓、能をも極め、武道もよくしたと言れます。時代の要請により長

城を逆コースで、太鼓門櫓、時報鐘(ちょうど12時の定時、鐘がつかれました)天秤櫓と下り、彦根城博物館(時間の都合で省略)を左に表門橋を出ました。懇親会予定時刻まで少し時間があります。殆どの会員が、開国の父井伊直弼が部屋住み時代(17才から32才まで)を過ごした埋木舎を見学しました。第1回NHK大河ドラマ“花の生涯”的主人公です。十四男として生まれ、この屋敷を埋木と号するに「世の中を見つつも埋木の埋もれておらむ心なき身は」と詠み、ここで禅の道のほか、茶歌、鼓、能をも極め、武道もよくしたと言れます。時代の要請により長

浜」と改め、城下には樂市樂座をしき、『町屋數年貢免除』の朱印を授けました。この希なる特権に入ると全国で3番目の鉄道が敷かれ、県下最初の小学校、銀行等が町民の手で立てられるなど、文明開花の先取りをして行きました。その気風は現代まで受け継がれ、「ガラス文化」を取り入れる大きな布石になります。

黒壁スクエアーは長浜駅から徒歩3分、北国街道を中心に情緒ある明治の風格建造物、にガラスをちりばめた22館の総称、我々はこの中心10号館、『黒壁ガラス観賞館』に入りました。

この建物は旧長浜豪商・川路家の邸宅で、旧長浜町内に現存する典型的な「商家型民家」です。この歴史的な建物を修復「ガラス観賞館」として蘇えらせ、古代から現代までのガラスの芸術作品が展示されています。日本建築とガラス芸術が見事に調和しています。

後はスクエア内を散策、ショッピングを楽しみました。黒壁スクエアは歴史の町「長浜」の町起こしのシンボル、彦根とのセントはなかなかのものでした。

16時30分、予定より少し遅れて吉が420年前、出世城と呼ばれる『長浜城』を築きました。それまでの進取の気性にみち戦国時代は早く、國友の鉄砲、浜縮縄、ビロード等が始まりました。ここで秀

関西支部の家族見学会は伊勢志摩にある「志摩スペイン村」を目的地として、10月19日に開催されました。その日は終日快晴でした。

本部からは近藤副会長、大嶋副会長にご出席いただき、参加者は会員90名、同伴者大人98名、子供18名の計206名に世話役17名を加えて総勢223名になりました。

浜駅前到着は18時、お疲れ様でした。一同来年の再会を約し散会しました。 石川進記(昭26年卒)

例年のごとく京都組は京都駅に到着、『町屋數年貢免除』の朱印を授けました。この希なる特権は明治維新まで続き、長浜発展の大好きな拠り所になりました。明治に入ると全国で3番目の鉄道が敷かれ、県下最初の小学校、銀行等が町民の手で立てられるなど、文明開花の先取りをして行きました。その気風は現代まで受け継がれ、「ガラス文化」を取り入れる大きな布石になります。

黒壁スクエアーは長浜駅から徒歩3分、北国街道を中心には情緒ある明治の風格建造物、にガラスをちりばめた22館の総称、我々はこの中心10号館、『黒壁ガラス観賞館』に入りました。

この建物は旧長浜豪商・川路家の邸宅で、旧長浜町内に現存する典型的な「商家型民家」です。この歴史的な建物を修復「ガラス観賞館」として蘇えらせ、古代から現代までのガラスの芸術作品が展示されています。日本建築とガラス芸術が見事に調和しています。

後はスクエア内を散策、ショッピングを楽しみました。黒壁スクエアは歴史の町「長浜」の町起こしのシンボル、彦根とのセントはなかなかのものでした。

例年のごとく京都組は京都駅に到着、『町屋數年貢免除』の朱印を授けました。この希なる特権は明治維新まで続き、長浜発展の大好きな拠り所になりました。明治に入ると全国で3番目の鉄道が敷かれ、県下最初の小学校、銀行等が町民の手で立てられるなど、文明開花の先取りをして行きました。その気風は現代まで受け継がれ、「ガラス文化」を取り入れる大きな布石になります。

浜駅前到着は18時、お疲れ様でした。一同来年の再会を約し散会しました。 石川進記(昭26年卒)

11月15日(土)、外山先輩のご紹介で鳴海カントリークラブでプレーをした。前日の雨もあがり、曇り時々晴れという絶好のゴルフ日和であった。

綺麗に色づいた樹木も、文字通り我々の会に色を添えてくれた。故障者もあり、会員10名と外部から2名の3組でのコンペになつた。新ペリア方式のハンドイで実施したが、優勝は昭和23年卒の西尾氏(当日の最年長者)、ベスグロは89の昭和39年卒の大西氏(当日の最年少者)であった。

大野支部長、前原会計幹事からの寄贈もあり、豊富な賞品を目指して、熱戦が繰り広げられた。

遠藤茂記(昭27年卒)

志摩スペイン村の最寄り駅である志摩磯部駅には11時38分に到着し、そこからバスに乗継いで志摩スペイン村に入場しました。入場後は昼食会場のレストランへ急行する予定でしたが、スペイン人のパフォーマンスに立ち止まつたり、スペイン風の建物を見上げたり、カメラで写したりと、志摩スペイン村が発散するスペインの雰囲気が会員の皆さんを惹きつけてしまい、その足取りは各駅停車のようになつてしましました。

昼食会は、井上支部長の「本日のような好天を、当地ではスペイン晴れと申します。」で始まる挨拶、近藤副会長の来年百周年を迎

平成10年1月1日

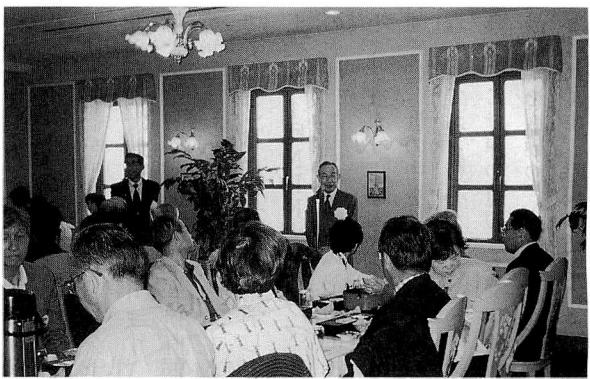
地のエリア“ティエラ”です。パル、ここでは入江を中心に壮大な冒険アトラクションを楽しめます。残るエリアは祭りのエリア“フイエスタ”、楽しいアトラクションやストリートパフォーマンスが楽しめます。岩下志摩さんがCMで「もうのらへん！」と言つた世界最大の吊り下げ式コースター“ピレネー”はここにあります。

会員の中にはピレネーに3回も乗られた方がいたそうです。

午後4時にスペイン村を出て、団体バス乗場に集合しました。私ども世話役はスペイン村のゲート付近で待つておりましたが、会員の皆さんが満足げな顔をされるのを見て、ほっとしました。中には世話役に「ありがとう」、「ご苦労様でした」と声をかけてくださる方もおり、疲れが吹き飛ぶようないかされました。

志摩スペイン村は伊勢志摩国立公園内に建設されたテーマパークで、34haの敷地面積があり内部は4つのエリアにわかれています。エンタランスを入れるとすぐ目の前に広がる、まるでスペインの都市を訪れたような気分が味わえるエリア“シウダード”があります。

奥に進むと中世の古城や、太陽に美しく映える白壁の家々、風車が見えてきます。ここはスペイン大



地のエリア“ティエラ”です。パル、ここでは入江を中心に壮大な冒険アトラクションを楽しめます。残るエリアは祭りのエリア“フイエスタ”、楽しいアトラクションやストリートパフォーマンスが楽しめます。岩下志摩さんがCMで「もうのらへん！」と言つた世界最大の吊り下げ式コースター“ピレネー”はここにあります。

会員の中にはピレネーに3回も乗られた方がいたそうです。

午後4時にスペイン村を出て、団体バス乗場に集合しました。私ども世話役はスペイン村のゲート付近で待つておりましたが、会員の皆さんが満足げな顔をされるのを見て、ほっとしました。中には世話役に「ありがとう」、「ご苦労様でした」と声をかけてくださる方もおり、疲れが吹き飛ぶようないかされました。

志摩スペイン村は伊勢志摩国立公園内に建設されたテーマパークで、34haの敷地面積があり内部は4つのエリアにわかれています。エンタランスを入れるとすぐ目の前に広がる、まるでスペインの都市を訪れたような気分が味わえるエリア“シウダード”があります。

第68回関西支部ゴルフ競技会が平成9年10月5日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。今回は午前中小雨にみまわれることとなりましたが、幸い昼からは天気も持ちなおし、昭和16年卒の加藤孝一氏、西村正太郎氏を筆頭に総員32名(シニアの部11名)が競技に汗を流しました。

結果は次の通りです。

優勝	福川幸勇(26年卒)
2位	米満英二(63年卒)
3位	大谷清二(25年卒)
2位	福川幸勇(26年卒)
3位	大谷清二(25年卒)
優勝	福川幸勇(26年卒)
2位	大谷清二(25年卒)
3位	中堀増夫(30年卒)

第69回関西支部ゴルフ競技会のご案内

第69回 平成10年5月31日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース

◎第69回は第63~68回の取切り戦です。多数のご参加をお待ちしております。

（連絡先）

関西電力 八木 誠(昭47年卒)

藤岡直人(平3年卒)

06-441-9651

藤岡直人記(平3年卒)



第2回中国支部ゴルフコンペ H9.11.1 於 賀茂C.C

第68回関西支部ゴルフ競技会報

ゴルフ競技会報告

中国支部 第2回ゴルフコンペ開催

中国支部では、平成9年11月1日(土)賀茂カントリークラブにて第2回ゴルフコンペを開催しました。

昨年長年の念願であった第1回ゴルフコンペを開催後、次回を心待ちにしていた30代から70代までの12名が集まりプレーを競い合いました。当日は絶好のゴルフ日和に恵まれ、12名の参加者は終始楽しく和やかにプレーを満喫でき、

会員相互の新たな親睦を深めることができました。

第2回の優勝者は、ネット72のパープレイのスコアを記録された近藤純一氏(昭和50年卒)でした。また、最年長の石田隆弘氏(昭25

年卒)は、ベスグロにドラコンにと大活躍でした。

編集後記

新年おめでとうございます。

会員皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

いよいよ、電気百周年の年を迎えた。洛友会の益々の発展に努力いたたく、倍旧のご協力の程お願ひ申し上げます。 松本 博記

いよいよ、電気百周年の年を迎え、洛友会の益々の発展に努力いたたく、倍旧のご協力の程お願ひ申し上げます。 松本 博記

計 報

講大10 石井一心
昭11 桜井八太郎
昭11 高木一雄 9・1・19

昭12 田崎高義 9・8・17
昭13 上條清一郎 9・8・12
昭13 西堀 博

昭29 加納顕一 6・6・30
昭34 鷹尾和昭 9・11・24
平5 大下淳司 11・24

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。